



平成29年3月10日
港湾局政策調整課
教育委員会事務局
生涯学習文化財課
帆船日本丸記念財団・
JTBCコミュニケーションデザイン
共同事業体

帆船日本丸が国の重要文化財に指定されます！ ～重要文化財指定を記念して、記念イベントを開催します～

「帆船日本丸」が3月10日に開催された文化審議会文化財分科会の答申を受け、重要文化財の指定を受ける運びとなりました。

海上で保存されている帆船としては、我が国初の重要文化財指定となります。

現在、帆船日本丸はみなとみらい21地区の日本丸メモリアルパークで、既に重要文化財に指定されている石造りドック（旧横浜船渠株式会社第一号船渠）に船体を浮かべて保存・公開しています。

今回の答申に際し、「帆船日本丸」が評価されたポイントは以下のとおりです。

- ① 日本丸は、長い期間にわたり船員養成の任を担い、我が国の海運業の発展に貢献した。
- ② 現存稀少な戦前期建造の船であり、建造当時の構造、艤装をよく伝え、わが国の海運史、造船技術史等研究上に貴重である。

指定管理者「帆船日本丸記念財団・JTBCコミュニケーションデザイン共同事業体」では、この答申を記念し、3月20日（月・祝）、4月16日（日）及び7～9月に記念イベントを開催いたします。（裏面をご参照ください）

【林 文子 市長コメント】

帆船日本丸は昭和5年の建造以来、54年間にわたり練習船として活躍し、我が国の海運を支える人材の育成に大きく貢献しました。横浜への誘致にあたっては、83万人もの署名が集まりました。その優美な姿から「太平洋の白鳥」とも呼ばれ、市民の皆様をはじめ横浜を訪ねる多くの方に親しまれています。

このたび帆船日本丸が重要文化財の指定を受ける運びとなり、大変光栄です。横浜市民や関係者、ボランティアの皆様と御一緒に喜びを分かち合うとともに、この貴重な財産を、しっかりと後世に引き継いでいきたいと思っております。



○ 記念イベントの概要

3月20日（月・祝）

重要文化財の答申を記念し、満船飾^{まんせんしよく}の実施にあわせて帆船日本丸・横浜みなと博物館を入館無料とします。

※満船飾とは、船でお祝いの時に船の通信に使用する国際信号旗を掲げることをいいます。

日本丸では、船首から各マストの頂を通して、船尾まで掲げています。

4月16日（日）

平成29年度最初の総帆展帆^{そうほんてんぱん}（全ての帆をひろげること）にあわせて、横浜市消防音楽隊による記念演奏を実施予定です。 ※詳細については後日改めてお知らせします。

7～9月

横浜みなと博物館において、重要文化財指定を記念した企画展と関連行事を実施予定です。

※企画展の詳細については後日改めてお知らせします。

【重要文化財に指定される内容】

名称及び数量		所有者
日本丸 ^{にっぽんまる} 一艘		横浜市
進水年月	昭和5(1930)年1月	
製造所	株式会社川崎造船所製	
船種	帆船（4檣 ^{しやう} バーク型）	
用途	練習船	
総トン数	2,278.25 トン	
全長	97.05m	
幅	12.95m	
附 ^{つけたり} 一、文書・記録類	181点	
一、図面類	351点	

※画像の提供をご希望の場合は、次の「お問合せ先」の港湾局政策調整課までご連絡ください。

お問合せ先

(帆船日本丸の重要文化財指定に関する事) 港湾局政策調整課長 菅谷 良一 Tel 045-671-2877
(文化財行政全般に関する事) 教育委員会事務局生涯学習文化財課長 重松 馨 Tel 045-671-3236
(現地取材のお申込み) 帆船日本丸記念財団・JTB コミュニケーションデザイン共同事業体
帆船日本丸船長 飯田 敏夫 Tel 045-221-0280